

酸化エチレン処理技術分野の進捗状況及び今後の予定について

1. 平成17年度の進捗状況

(1) ワーキンググループ(WG)開催経緯等

「VOC処理技術WG」において、VOC処理技術分野(ジクロロメタン等有機塩素系脱脂剤処理技術)と併せて検討を行っている。

(酸化エチレン処理技術関係)

17年5月25日 平成17年度第1回WG開催

(6月30日 平成17年度第2回WG開催)

第2回WGはVOC処理技術分野について検討

18年2月15日 平成17年度第3回WG開催

(2) 実証試験状況等

平成17年度第1回のWG会合において、酸化エチレン処理技術分野については、手数料徴収体制への移行に際し、技術分野固有の課題が残されていることから、「平成17年度環境技術実証モデル事業実施要領」の規定により、平成17年度は手数料徴収体制の検討に専念することとし、実証機関の公募・選定及び技術の公募は行なわないこととした。

(WG検討員名簿は資料1-1-2参照)

2. 今後の予定

WG等で議論した結果、酸化エチレン処理技術分野の今後の方向性については、以下のとおりまとめられた。

VOC処理技術WG独自に実証試験へのニーズ調査をした結果、現行の対象技術の範囲では技術開発者の実証ニーズは小さい。一方、他のVOC処理技術では幅広い実証ニーズが認められた。

このため、現行の酸化エチレン処理技術分野については、2年間で大体の技術が実証を終えたと考えられることから、手数料項目を含む実証試験要領(第3版)を策定した上で、実証機関及び技術開発者のニーズが一定程度蓄積するまで実証を休止する。

なお、ニーズについては継続的に調査し、必要に応じ、手数料徴収体制において再開する。

平成18年3月22日、第4回WGにおいては、酸化エチレン処理技術分野を包含する形で、汎用的VOC処理技術分野実証試験要領の作成の方向性等について検討する予定。

平成17年度環境技術実証モデル事業検討会
VOC処理技術ワーキンググループ 検討員名簿

- 岩崎 好陽 元 東京都環境科学研究所 参事研究員
- 小淵 存 (独)産業技術総合研究所環境管理研究部門 浄化触媒
研究グループ長
- 加藤征太郎 中央大学理工学部 講師
- 坂本 和彦 埼玉大学大学院理工学研究科 教授
- 志賀 孝作 東京都鍍金工業組合 環境科学研究所 所長
- 土井 潤一 日本産業洗浄協議会 理事
- 中杉 修身 上智大学大学院 地球環境学研究科 教授
- 山川 洋平 武蔵野赤十字病院 事務部長(元 東京都衛生局
薬務部長)(第2回まで)